

都留市地域公共交通活性化協議会 第4回会議録

日時：平成24年1月31日（火）15：00～16：30

場所：都留市消防署 2階会議室

委員出席者：奈良泰史委員、石合廣幸委員、北村忠義委員、天野友一委員、八代直之委員、村松正美委員、泉静男委員、篠原勇委員、三浦政秀委員（代理 奥脇 氏）、高部知幸委員（代理 橋本 氏）、矢嶋進委員、中村平委員、金井啓二委員、小俣光也委員

事務局：高部剛政策形成課長、鬢櫛美咲企画担当リーダー、佐藤秀樹企画担当、河野淳企画担当

欠席者：大柴節美委員、田中一利委員、相川義美委員、小宮正廣委員

1 開会（司会：高部政策形成課長）

2 会長あいさつ（奈良会長）

・本日第4回目の協議会において、総合連携計画の最終素案についてご協議をいただく。本日の協議会でまとまった内容により2月にパブリックコメントを実施し、市民の意見を伺い、更に、未来を拓く都留まちづくり会議として各地区へ出向いて各地区の方々の意見を伺う。それらの意見を踏まえ最終的な計画を取りまとめ、次回の委員会で連携計画（案）の最終決定をいただくこととなる。本日の協議会は、非常に重要な場であり、委員の皆様方の英知を結集しすばらしい連携計画となるようご協力をお願いしたい。

3 協議事項

(1) 連携計画（素案）について

■事務局より報告（鬢櫛企画担当リーダー）

<質疑>

【天野委員】

・素案42ページの指標④（公共交通サービスの満足度）について満足度30%を目標とされているが、目標であれば50%程度でもよいのではないかと思う。利用者の半数程度が満足することを目指して、目標を設定した方がよいのではないか。

【事務局】

・当該指標について、平成23年度（現在）実績は、素案14ページ（路線バスの満足度）のとおり都留市長期総合計画（後期基本計画）策定時のアンケート結果による。当該結果を見ると「どちらでもない」が34%と多数を占めており、これを踏まえて目標値を30%程

度と設定した。

- ・目標値については、委員の指摘のとおり修正する。平成 23 年度の実績値（後期基本計画アンケート結果）は、参考値として記載し、平成 26 年度にアンケート等を実施し、路線バス利用者の満足度を算定、50%を目標値とする。

【北村委員】

- ・市民から 10 時から 11 時までの間に病院へ行きたいとの声を聞く。デマンドバスについて、時刻を指定せずに運行していただけないか。

【奈良会長】

- ・デマンドバス運行によりタクシー事業者への影響が出ており、タクシー事業者と競合しないような仕組みも必要である。現状では、バスの代替え手段として予約型タクシーを実施するという案となっている。今回の実証運行でもタクシー事業者に影響が出ているということである。この件については、今後の課題となると思う。意見があったことについて、記録させていただく。

【村松委員】

- ・素案 42 ページの評価指標、①（補助対象路線利用者数）、②（循環バスの利用者数）、⑥（路線全体の平均収支率）の 3 つの指標はそれぞれリンクしているのか。また、3 つの指標をそれぞれ踏まえて目標値を設定されているのか。

【事務局】

- ・3 つの指標はそれぞれリンクしていない。個々に目標率を設定している。

【村松委員】

- ・目標値であるので、構わないが素案 51 ページに、路線バス運行見直し基準として「収支率 15%未満」とあり、42 ページの評価指標では「収支率 30%」を目標とするとハードルが高いのではないかと思う。

- ・素案 42 ページ③（デマンド型乗合タクシーの 1 台当たりの乗車数）について、1 台あたりの乗車人数 3 人も目標値とするとセダン車両の場合であればほぼ満員であり、高い設定ではあると思う。

【事務局】

- ・目標値については、実証運行結果、路線バスの運行実績等を踏まえ設定している。

【篠原委員】

・評価指標において、利用者数の目標値は、現状の路線バスの利用者数に循環バスの利用者数を単純に足した数値であるのか。

【事務局】

・循環バス利用者の目標値及びデマンド型乗合タクシーの乗車見込み数に宝線と菅野線の路線バスの利用者数を現状維持を見込数として足したものとなっている。

【篠原委員】

・今回の実証運行において鉄道を含める中で、バス、タクシーとの連携を図ったが、PR不足等の理由により思うような数字は出なかった。連携計画の中で、平成24年度以降、鉄道との連携についてどのような取り組みを想定されているのか。

【事務局】

・素案54ページの3.②乗り継ぎ割引制度の検討に含めて考えている。また、富士急行線については、JRとの接続を踏まえてダイヤを設定しているとの話を伺っており、バス、デマンドのダイヤを鉄道へ合わせていくことになると思う。現状、具体的な内容は不確定であるが、乗り継ぎがしやすい環境整備の中で鉄道を含めて検討を行っていく。

【篠原委員】

・都留市の鉄道、バス、デマンドが運行されている地区の方はよいが、それ以外の地区において電車を使ってきた利用者について、バス、デマンドに乗り換えるまでの配慮をしなければならないと思う。都留市全体の公共交通の問題である。公共交通に対する満足度が低い結果となっているが、この数値を上げていくためにも公共交通がある地域だけで考えるのではなく、都留市全体の公共交通のあり方をどうするのかを考えていく必要があると思う。その観点の一つとしてバス、電車等のダイヤをどのように調整していくのか検討していきたいと思う。

【三浦委員代理】

・富士急行線18駅のうち都留市エリアに8駅あり、半数近くの駅が都留市内にある。都留市の低炭素地域づくり計画策定においては、鉄道（富士急行）も委員として参加しているが、本委員会には参加していない。今後、鉄道（富士急行）の本委員会の参加について検討をいただきたい。バス、デマンド、鉄道一体での取組が可能となる。

【事務局】

・今後の課題として検討する。

【天野委員】

・都留市内に高速バスの停留所があるが、高速バスについては本計画でどのように考えているか。

【篠原委員】

・検討段階であるが、都留インター近くの用地を借りて高速バス利用者の駐車場設置、パークアンドライド等の対応ができないか模索している。

・高速バスの停留所がある都留インター近くに路線バスの停留所（道生堀）を設けてはいらぬ。どの程度の方が、路線バスから高速バスへ乗り換えているかは不明。

【三浦委員代理】

・今回のデマンドバス実証運行で曾雌地区の7～8名の団体客が、道生堀で降車し、高速バスを利用するケースが見られた。

・利用実態を見ると、客自身がより安く利用できる交通手段を検討している。今後の本格運行に際しては、選択肢を広げ、分かりやすくサービスを提供することが重要である。

(2) 生活交通ネットワーク計画の策定

■事務局より報告（鬢櫛企画担当リーダー）

< 質疑 >

【村松委員】

・生活交通ネットワーク計画及び補助対象事業について補足説明

【事務局】

・事業者の選定について、「循環バス」については事業者を特定しているが、補助対象から外れるおそれがあるため、国交省に対して今後協議していく。

【村松委員】

・事業者はあくまでも公募が原則である。

【事務局】

・連携計画素案 45 ページにおいて、循環バスは、運行事業者の欄で事業者を特定しているが、こちらの内容について検討の必要がある。

【奈良会長】

- ・申請する該当路線について、事務局において運輸局へ照会を行い次回までに確認する中で検討すること。

4 その他

■今後の日程について事務局より連絡

- ・パブリックコメント実施：平成24年2月6日～2月23日を予定
- ・次回会議2月27日開催予定